

タイの若者における性的志向・性行動の関連要因

早稲田大学 小島宏

はじめに：

1990年代のタイではHIV/AIDSの急激な流行があり、2000年代初頭には多数の死亡者が出た。そのため、2000年前後から比較的大規模な（危険な）性行動に関する標本調査が実施され、それらに基づく効果的な対策により近年は死亡者数が大幅に減少している。2006年にはUNAIDSの支援により、マヒドン大学人口社会調査研究所のA. Chamratrithirong 名誉教授を主任研究者として National Sexual Behavior Survey of Thailand 2006 が実施され、若干の研究成果が英語で出されてきた。しかし、詳細なコードブックがタイ語でしかないためか、マヒドン大学の調査チームのメンバーとの共同研究でないと研究が難しい面があった。報告者は同教授とは旧知の関係にあり、2011年タイ人口学会大会で招待講演を行った際にマイクロデータを譲り受けた。しかし、同様の理由で分析を躊躇してきたが、最近、LGBTの人口学的研究をすることになったことから、同調査のデータの分析を始めた。

分析方法：

2006年タイ調査は18～59歳を対象としているが、18～24歳の若者（3024ケース）に限定し、男女別にも分析を行う。分析方法としては性的志向と初交相手の性別に関するロジスティック回帰と初交タイミングに関するCox回帰を用いる。関連要因としては各種の人口学的、地理的、社会経済的、文化的、住宅関連要因を投入する。

分析結果：

予備的分析の男女別の結果によれば、以下のとおりであるが、性的志向については回答のしやすさや結果に関連する変数も含まれているように思われる。男性がゲイであることには高い識字能力、学業による無業、父親との同居が関連しており、バイセクシュアルであることには識字能力が高いことが関連している。女性がレスビアンであることには第2言語が北部タイ語、販売サービス職、学生であることが関連しており、女性がバイセクシュアルであることについては宗教心がないこと、現業労働職、失業による無業、学業による無業、公務員、テレビを見ないこと、婚家同居、タウンハウス・賃貸戸建居住が関連している。初交相手が同性の者が非常に少ないため、男女一緒の分析しかできず、学業のために無業だけが関連していることが示された。他方、男性の初交タイミングを早めることに関連する要因としては中部タイ語・南部タイ語の話者、新聞を毎日読むことがあり、遅らせることに関連する要因としては高等職業学校・短大卒、大卒、宗教心がかなり強いこと、圃場での就労、学生であること、一戸建て住宅に居住することがある。女性の初交タイミングを早める要因としては早婚に関連するものが多いようであるが、4人世帯居住、小卒、中卒、高卒、高い識字能力、宗教心がないこと、カンボジア語が第2言語、家事による無業、父親との同居、婚家同居、配偶者との同居、住宅所有があり、遅らせることに関連する要因としては学生であること、ラジオを聞かないこと、友人との同居がある。

おわりに：

英文のコードブックが利用可能でないため、英文のSPSSデータの変数カテゴリーで代用したが、そこにはないコードが比較的多くあり、初交タイミングの分析では半数程度のケース、初交経験者の分析ではさらにその半分程度のケースしか使えなかった。そこで、制約は小さくないが、欧米の性行動調査ではあまり質問が含まれていない性的志向についての質問があることから、LGBの性行動の分析を今後の課題としたい。